

てありますか、國家の前途を思はぬのでありますか。今の思想界が感亂するに就ての最も恐るべき原頭は、國民が高潔なる宗教心を失ふ事に淵源するのであるとは、これは世界の定論である、色々この禍ひの來る所はありますけれども、人々が唯物的の思想になつて高い理想を失ふのが本である、その高い理想に導くものは宗教である、道徳が形式化して根柢を失ふ時、その道徳の根柢を築くものは宗教である。道徳が實行の力を喪ひ、言葉では覺えるけれども實行し得ない時、その道徳の實行力を與ふるものは宗教であります。物質我慾の爲に人が過ちを取る時、これを牽制しこれを反省せしむるものは宗教である。すべて今日の弊害は、宗教の神聖なる意義を發揮しさへすれば、大部分除かれるのである。然るに今尙ほ醒めずして、教育者が宗教に就て正確なる觀念を打樹てざるは、國家の前途を念はぬ者と言はれても申譯がありませんまい。唯だ一時を糊塗して今までやり來つた間違ひを正直に謝罪するだけの勇氣が無い爲に、この點を明かにすることが出來ないのではないからうか。

この狭い解釋に就ては色々ありますけれども、左様な事のみ申して居つては時間が無くなりませうから姑くこの邊で預りにして、次に廣い解釋に就ての缺點を申し上げたいと思ふ。

それは宗教の必要を自覺して參つたが爲に、この教育勅語の中に宗教があるといふ事を申すのであります。無論宗教の或る意味合はありませうけれども、これによつて教育勅語は直ちに宗教を信ぜよと指示になつて居るといふのは、どの文意から申すのでありますか。教育勅語をば牽強附會する事は、畏れ多いことである。丁度法華宗の或る者が經文を離れて、文の底ぢやといふ様な事を言つて横へ抜けて勝手な事を言ふやうに、教育勅語の意味ちやと言つて杜撰なる考を混せて行くのは、甚だ相濟まぬ事でありませう。この勅語の中に宗教を含むとすれば、どういふ意味の所に含有するかを明かにしなければなりません。モウ一つの説としては、この教育勅語そのものが直ちに宗教であると言ふ人がある、勅語が即ち宗教だと申して他の宗教は要らないと云